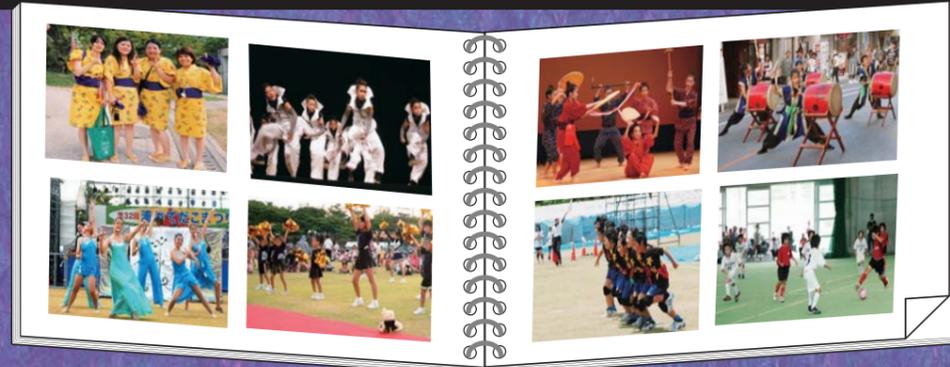


浦添の夏の風物詩「てだこまつり」が7月17日(金)の前夜祭を皮切りに7月19日(日)までの3日間開催され、延べ18万人の来場者で賑わいました。18、19日の両日もまつりの最後には花火が打ち上げられ、夏の夜空を彩りました。



▲19日(日)に行われた第9回てだこハーリーでは過去最多76チームが参加し、白熱した試合が繰り広げられました。

ご寄付・ご寄贈ありがとうございました。

| | |
|------|-------|
| 寄付件数 | 403件 |
| 物品寄贈 | 2件 |
| 総額 | 723万円 |

園児たちによるしめ太鼓の演奏

浦添市移民史便り



～移民資料の紹介～ 第9回

沖縄学研究室には、たくさんの移民出稼ぎ資料があります。現在、室内には図書館1階一般開架室から一部移動した移民出稼ぎ関係図書(貸出可)と研究室で購入した移民出稼ぎ関係の貴重な図書や史料類があります。

さらに多くの市民から提供された移民出稼ぎ関連の手紙・写真・旅券(パスポート)・名簿などと、各部署から移管された公文書類(行政資料)は、沖縄学研究室で保存・整理されています。研究室では、ひとつひとつの資料をデータ化し、移民調査や研究活動、市民の学習活動に供しています。

今回は室内に所蔵される資料、とくに市民の「移民出稼ぎ」に関する行政資料(公文書)の一部を紹介します。

「移民奨励補助金交付簿」

戦後フランスル移民希望者36人の氏名が受付記載されています。1960～62年、移民希望者には10ドルから1ドル2セントが日本政府から補助交付されました。



写真1 浦添村役所(当時)作成の「移民奨励補助金交付簿」

「株券」

字小湾在住の外間さん所有の株券は、字誌編集事業の過程で自治会に提供されたものです。自治会のご厚意で研究室に寄贈されました。現在、

研究室所蔵のこの株券が唯一のものと考えられます。南米拓殖株式会社は1957年に創設された移民斡旋会社で、当時の浦添村長・又吉正雄氏が役員として参加していました。



写真2 写真1に関連する「南米拓殖株式会社」株券

「復員名簿」

戦後、多くの沖縄県民が旧南洋諸島(ミクロネシア)、旧満州国(中国東北部)、朝鮮半島、樺太(サハリン)、台湾、フィリピンなどの旧植民地からの帰国や日本本土から帰郷しました。現沖縄市宇高原にキャステロ収容所(俗称インヌミ収容所)が設置され、約3千人の浦添出身者が1946年8月から49年半ばの期間、この施設に一時隔離されていました。

中城村久場崎海岸上陸後に施設内の軍政府任命の各市町村長宛に収容年月日や氏名、移民先などを列記した名簿が作成されました。「復員名簿」は現在、キャステロ収容所内の引揚民数、

氏名、収容状況などを知る戦後の一級行政資料として、他の自治体史編さんの際、大いに活用されています。当然にして、浦添市移民史事業の間取り調査の重要なデータとして、各自治会に提供している資料で、移民史調査員の基礎資料としても必要な歴史資料です。



写真3 キャステロ海外引揚民収容所作成・浦添村綴りの「復員名簿」

1899年(明治32年)から1944年(昭和19年)までの北米・中米・南米やフィリピンへの海外移民者の旅券番号、氏名、身分、移民斡旋会社などを記録した貴重な移民資料です。約1,350余人の浦添関係者が記されています。平成19年度から実施している「浦添市移民史事業」のための各字インフォーマント調査が、去る8月から開始されていますが、下付表にみる浦添関係者の出身字、続柄、移民状況などが調査の際に十分に活かされているのも、この資料の価値を高めています。

外務省受付「海外旅券下付表」



写真4 外務省受付「海外旅券下付表」

復員名簿字別人数(総数2,923人)

| 字別 | 人数 | 字別 | 人数 |
|-----|-----|-----|-----|
| 沢岷 | 178 | 仲間 | 249 |
| 勢理客 | 103 | 安波茶 | 114 |
| 内間 | 100 | 前田 | 175 |
| 仲西 | 103 | 伊祖 | 127 |
| 小湾 | 161 | 城間 | 472 |
| 経塚 | 153 | 宮城 | 141 |
| 大平 | 76 | 屋富祖 | 199 |
| 港川 | 89 | 牧港 | 183 |
| 当山 | 35 | 西原 | 265 |

問い合わせ
浦添市立図書館
沖縄学研究室
☎876-4946